

「シドニーオペラハウス」

Mission I

東京大学大学院 新領域創成科学研究科 環境学専攻 助教授・博士(工学)

清家 剛

みなさん「ミッションインポッシブル」という映画をご存じだろうか。あの昔懐かしいテレビドラマ「スパイ大作戦」の映画版である。映画ではトム・クルーズが主人公のイーサン・ハントを演じてストーリーが展開する。第1作ではプラハを発端に、アメリカのスパイ組織IMF本部、ロンドンと舞台を変えて物語は展開する。「Mission Impossible 2」というタイトルのシリーズ第2作では、シドニーを舞台に物語が進む。有名なスパイとしての指令がくだされるシーンでは、アメリカのどこかでフリー・ロッククライミング中のイーサンのそばに小型のロケット弾が打ち込まれ、そこから取り出したサングラスをかけると指令が映し出される。そしてあの「例によって君もしくは君の仲間が敵に捉えられ、あるいは殺されても当局はいっさい関知しない。」というくだりがあって、サングラスを投げると、それが地面に着く前に燃えつきるというものである。

さて、この映画の舞台はそこからスペインに飛び、そしてシドニーを中心に展開する。主人公イーサンはシドニー都心のパイオサイト製薬会社に進入するため、本社超高層ビルの上から、建物の中の最上階から42階までつながっている光庭の底に向かって、ヘリコプターからケーブルを使ってダイブするという設定。この超高層、実在するガバナー・フィリップ・タワー（1995年・DCM設計）という建物で、「玉子スライサー」と呼ばれる建物頂部の特徴的なデザインが有名なオフィスビルです。頂部デザインは確かに映画に使いたく

なるようなビルですが、図面を見る限りは光庭はなく、センターコアタイプで真ん中にエレベーターがあるようです。頂部のデザインは残念ながら下からでは撮影できませんので、遠景で御確認を。（写真①）映画を見ると、もっとよくわかりますよ。

さて、この映画のオープニングには、当然のようにシドニーオペラハウスの空撮が使われています。有名なシドニーハーバーブリッジからシドニーオペラハウスに向かっての撮影、おそらくみなさん何度も見たことのある映像です。エンディングも然りで、ハーバーブリッジとオペラハウスが両方画面に入って映画が終わる。ところが、このシドニーオペラハウス、オープニングとエンディングで大々的に使われているにもかかわらず、全くストーリーの中では関係ないのです。まるでシドニーを表す記号のように使われているんです。もっと使って欲しいなあ。

シドニーオペラハウスは、20世紀を代表する名建築の一つですが、殆どプレキャストコンクリートでできている巨大な建物でもあります。（写真②、③、④）この素晴らしい建物は、実に20年近い

歳月をかけて紆余曲折の後に完成しました。1957年の国際設計競技の結果、北欧の建築家ヨルン・ウッツォンの案が当選しました。海を帆走するヨットを連想させる貝殻状の大屋根が重なり合い、海に向かって突き出した岬に彫刻のような造形で作られた案は、応募案の中で最も優れたものだったそうです。この案を実現するにあたってはシェル・ポルトで構成した



清家 剛 TSUYOSHI SEIKE

東京大学大学院 新領域創成科学研究科

環境学専攻 助教授・博士(工学)

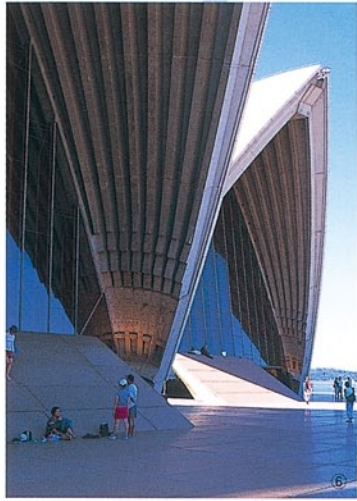
1964年 徳島生まれ

1987年 東京大学工学部建築学科卒業

著 書:『ファサードをつくる』『新ファサードシステム』

『東京の環境を考える』を共著

好きなうどん:ぎじょうゆうどん、たらいうどん、かまたまうどん



構造を、実際にどのようにまとめるかということが最大の問題であり、構造設計をロンドンのアラップに依頼しました。

PCシェル・ボルトの実施設計はなかなか実現可能な案にならず、見積額が増えたとえに技術的に未解決という状態から、シェルの形状を変更して球形から切り出した形に見直しました。その後ウツソンが辞任するなど様々なことがあって、完成にこぎつけたのは1973年でした。そして最終的には、殆どの構造材がプレキャストコンクリートでできた建物ができあがったのです。

知っての通り外観は美しいものですが、近景もなかなかのものです。いくつものシェルが折り重なって見える風景は場所ごとに異なり、とても楽しい気分させてもらえます。(写真⑤)シェル構造の足元は力の集中する様子が分かり、非常に力強いデザインに見えます。(写真⑥、⑦)工場で製作したタイル打込PCに

よる曲面は、30年近くたった現在でも美しく、シドニーの青い空に映えています。タイルは2種類、つや出しの白色とつや消しのクリーム色が使われており、タイルのクオリティーを管理するためにも球形の形状に変えたことがよかったようです。(写真⑧、⑨)またPCのエッジのディテール、ガラス面との取合いなどには、荒削りながら全体の迫力をいささかも衰えさせないきちんとしたものになっています。(写真⑩)

ウツソンのスケッチの曲線から球形の曲面に変換した時点で、デザインが変わってしまったという批判もありますが、私は構造として整理されてより迫力がでたのではと想像しています。

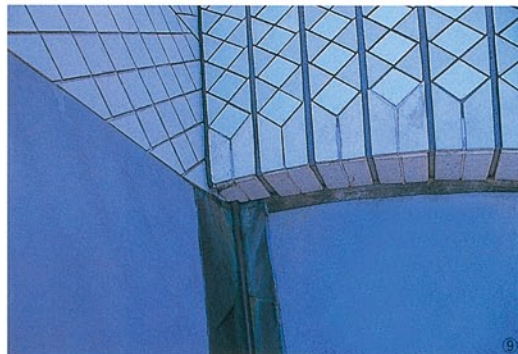
ところで、「世界三大がっかり」って知ってますか?日本人が海外旅行に行き期待してたのががっかりして帰ってくるベスト3らしいのですが、ベルギーはブリュッセルの小便小僧、デンマークはコペンハーゲンの

人魚姫、そしてシンガポールのマライオンという3つの像が、思ったより小さくて「がっかり」と言われています。だけど、時々人魚姫を押しつけて、このオペラハウスが入っているんですよ。まったくこの素晴らしい建物がどうして「世界三大がっかり」に名を連ねるのか疑問だけど、やっぱり空撮や湾から撮った迫力ある写真のイメージと、実際に見に来たときの風景があわないからがっかりということかしら。ということで、これからはあまりかっこいい写真は載せずに

ほどほどのものにしましょう!とか思いましたが、やっぱり建物を見るとついつい力を入れて何枚も撮ってきました。特に湾からの外観は素晴らしい。(写真⑪)湾内遊覧船に乗るのもいいのですが、在シドニー

の友人のアドバイスもあってオペラハウスの脇の港から動物園行きの船に乗って、コアラを見る行き帰りに船上からばっちり写真を撮りました。みなさんも今度行くときはいかがでしょう?コアラも見られますよ。(写真⑫)

いやあ、ホントにダイナミックな建物なんだから、わたしやせてトム・クルーズにオペラハウスの屋根を走るアクションぐらいやって欲しかったなあ。でも美しいあのタイルは痛めないようにね。



- 写真① シドニーの超高層群 ガバナーフィリップタワーは中央の一番高い建物
写真② オペラハウスの外観
写真③ オペラハウスの外観
写真④ オペラハウスの外観
写真⑤ オペラハウスの近景
写真⑥ シェル構造の足元

- 写真⑦ シェル構造の足元
写真⑧ 輝く外装のタイル面
写真⑨ 2種類のタイル
写真⑩ 屋根のエッジの納まり
写真⑪ 船から見たオペラハウス
写真⑫ コアラが撮影できなかったので撮ったハリネズミ